

第5回テラフロップワークショップ報告

東北大学情報シナジー機構情報シナジーセンター 小林広明

情報シナジー機構情報シナジーセンターは、情報科学研究科とドイツシュツツガルト大学高性能計算センターとの共同主催で、2006年11月20日(月)～11月21日(火)の両日、「計算科学の可能性と次世代スーパーコンピュータ研究開発動向を探る」をテーマに、第5回テラフロップワークショップ(5th Teraflop Workshop)を開催しました。本ワークショップは、国際的に活躍している計算科学の研究者及びスーパーコンピュータ設計者を招いて、高性能・高効率大規模科学計算に関する最新の研究成果の情報交換を行うとともに、今後のスーパーコンピュータ設計のあり方を議論することを目的として、これまで4回おもにシュツツガルト大学で行われてきました。

本ワークショップは16の招待講演から構成され、電磁解析、地質解析、流体、気象などの分野で国際的に活躍する研究者によるベクトル型スーパーコンピュータを活用した最新の研究成果の発表がありました。また、2010年にペタフロップスを超える実効性能を達成させる我が国の次世代スーパーコンピュータ研究開発プロジェクトの現状と今後の展開に関する最新情報の紹介や、スーパーコンピュータ開発メーカーの技術者による1チップで100Gflop/sを超える性能を有する超高性能ベクトルプロセッサの要素技術、および高バンド幅のデータ転送技術に関する興味深い講演がありました。2日間のワークショップでは、延べ120名を超える参加者を得て、活発な議論が交わされました。

また、オープニングセッションでは、梅原仙台市長からご挨拶を頂き、流暢な英語でNatureの記事を引用しながら学術都市仙台を紹介していただきました。次回は、2007年3月26-27日にシュツツガルト大学で行われます。

